

麻薬探知犬

麻薬探知犬は、人間の数万倍ともいわれる鋭い嗅覚によってわずかな匂いからでも麻薬を見つけ出すことができる優れた能力を持った犬のことで、増大する不正薬物の密輸入を防止することを目的に、昭和 54 年 6 月にアメリカ税関の協力の下、成田空港に 2 頭が配置・導入されたのが始まりで、以降、各税関の港や空港に順次配備され、現在では、130 頭を超える麻薬探知犬が活躍している。神戸税関では、平成 4 年に麻薬探知犬管理センターを開設し、麻薬探知犬（アグレッシブドッグ）が配備され、平成 8 年には広島空港に麻薬探知犬広島管理センターを開設し、平成 10 年パッシブドッグが配備された。

麻薬探知犬は、本邦へ入国する旅客の携帯品のほか、商業貨物の検査などに活用されており、覚醒剤や大麻等の不正薬物の摘発に貢献している。麻薬探知犬の犬種として主にラブラドール・リトリバーとジャーマン・シェパードが活躍している。



ロッキー (平 4.7～平 14.6)
神戸税関初代麻薬探知犬
ラブラドール・リトリバー



エルフ (平 4.7～平 12.7)
神戸税關初代麻薬探知犬
ジャーマン・シェパード



ルーブル (平 9.7～平 16.6)
神戸税關初代パッシブドッグ
ラブラドール・リトリバー



オーズ
(平 23.12～)



ギャル
(平 26.9～)



麻薬探知犬のデモンストレーションについては、オープencastムス等で行っている。



パッチ
(平 22.7～)



クサンガ
(平 25.5～)